

記念日のいわれ No.5

7月9日・・・ノーベ・デ・ジューリョ (Nove de julho)

「ノーベ・デ・ジューリョ (9 de Julho : 7月9日)」は、大通りの名前にもなっているサンパウロ州独自の祝日です。

なぜ、サンパウロ州独自の祝日かというと、それには次のような出来事がかかわっています。

ときは1929年、みなさんよくご存知の大恐慌が世界中をおそった年です。ブラジルの大統領はサンパウロ州出身のワシントン・ルイス (Washington Luis) でした。この当時、ブラジルでは、大統領はコーヒーの産地サンパウロ州と畜産品の産地ミナス・ジェライス州から交互に選出されるという暗黙の了解があり、このことをそれぞれの州の産物の名をとって、

「Politica de cafe com leite (ミルクコーヒー策略)」と呼んでいました。

さて、大恐慌の影響は当然、ブラジルにも訪れます。当時のブラジルの主要輸出品といえばコーヒーでしたが、アメリカ合衆国はこの買い入れを停止し、国際市場価格も暴落してしまいました。ブラジル経済は危機を迎え、失業者が急増し、社会不安が高まっていきました。その不満が政府に対しての非難という形で現れ、さらに対策に対する考え方の違いから州同士の対立も深まっていきました。

そのような中、ワシントン・ルイス大統領の任期も終わりに近づいてくると、連邦政府は次の大統領として、サンパウロ州の知事であったジューリョ・プレステス (Julio Prestes) を擁立しました。面白くないのはミナス・ジェライス州の人々です。そこで、リオ・グランデ・ド・スル州知事であったジェトゥリオ・ヴァルガス (Getulio Vargas) を対抗勢力として擁立し、選挙が行われることとなりました。そして、選挙のではジューリョ・プレステスが勝利し、次期大統領として決まるかと思われました。

ところが、このようなサンパウロ州のコーヒー貴族たちの強引な支配体制に対して、地方の諸勢力や新興中産階級、青年将校らが結集し、大統領選挙に違反があったとして、1930年10月3日に革命を起こしました。革命運動は主に南部の地方で起こり、当時、首都であったリオデジャネイロに向けて侵攻計画が立てられました。途中にあるサンパウロの街で衝突が起こる危険が高まり、ワシントン・ルイス大統領は、悲惨な結末を防ぐために10月24日、進行計画が実行される前に自らその職を辞ざるを得ませんでした。

ワシントン・ルイス大統領の辞職で勝利を得た革命軍は11月3日にジェトゥリオ・ヴァルガスによる臨時革命政府を樹立しました。しかし、臨時革命政府の樹立後もブラジルの社会状態は悪化し、失業者の数も益々増えました。サンパウロ州の経済もコーヒー産業の不振により大きな打撃が続いています。また、臨時革命政府は、1891年制定の共和制による初めての憲法を事実上停止状態にし、独裁的傾向が強くなっていきました。

このような中、サンパウロの政治家たちは新憲法の制定を促すため憲法制定議会の招集を要求してい

きました。サンパウロの人々の間でも不満が高まりました。

そして、ついに1932年5月23日の夕方、ヘプブリカ公園で大規模なデモが行われ、連邦警察との衝突の結果、後にサンパウロの英雄としてたたえられた4人の学生、MMDC＝マルチンス（Martins）・ミラガイア（Miragaia）・ドゥラウジオ（Drausio）・カマルゴ（Camargo）が命を落としました。この事件は、「Av. 23 de Maio」の名前の由来でもあります。

この事件をきっかけに、ヴァルガス政権に対する不満が一気に爆発し、1932年7月9日に選挙執行を要求する革命運動がサンパウロで起きました。国家のことを考え、ブラジルの人民の安全と自由を考えてサンパウロ州の約11万人にもものぼる志願兵が、この革命運動に参加しました。彼らは、ミナス・ジェライス州やリオ・グランデ・ド・スル州からの援軍を信じていましたが、その願いもむなしく10月3日に政府軍によって制圧されてしまいました。

この革命運動は武力による勝利を得られませんでした。1934年7月16日にブラジル共和制における第2番目の新憲法制定（ブラジル帝政時代を含めると3番目の憲法）の発布をヴァルガス政権にさせることができたという点で、サンパウロ州民は誇りを持っています。自分たちが行ってきたことは愛国的なものとして、イピラブエラ公園の北よりの端に高さ77メートルの白い大理石によるオベリスク（方尖塔）を建て、護憲運動の兵士に対する記念塔としています。（このオベリスクはガリレオ・エメンドスピリの作品です。）



このオベリスクの中には、国家と国民のために何も報いられずに死んでいった兵士の遺体が納められています。また、霊廟には「信仰の町サンパウロから理想実現のために、ある日、兵士たちが立ち上がり、そして死んでいった。」と碑銘が刻まれています。入り口にある9段の階段は、革命が起きた7月9日を表し、アーチはMMDC＝マルチンス（Martins）・ミラガイア（Miragaia）・ドゥラウジオ（Drausio）・カマルゴ（Camargo）の4人の英雄に敬意を表すためにそびえています。

こうしたことから、7月9日は、「Av. 9 de Julho」（7月9日大通り）の名前の由来でもあり、サンパウロ州独自の記念日として、数年前より祝日の指定を受けることとなりました。

ちなみに、サンパウロ以外の州では単に「サンパウロの反乱の日」または、「1932年の革命の日」と呼ばれているだけで祝日扱いにはなっていません。また、臨時革命政府を樹立したジェットウリオ・ヴァルガスは、1945年10月29日に軍部のクーデターによって追放されるまで15年間権力の座にあり、その間、1937年に共和制第3番目の憲法制定も行っています。その後、憲法は1946年、1967年と新たに制定されてきて、現行の憲法は共和制6番目のもの（ドン・ペドロI世による1824年制定の帝政憲法を加えるとブラジル7番目の憲法）として1988年に制定されたものです。